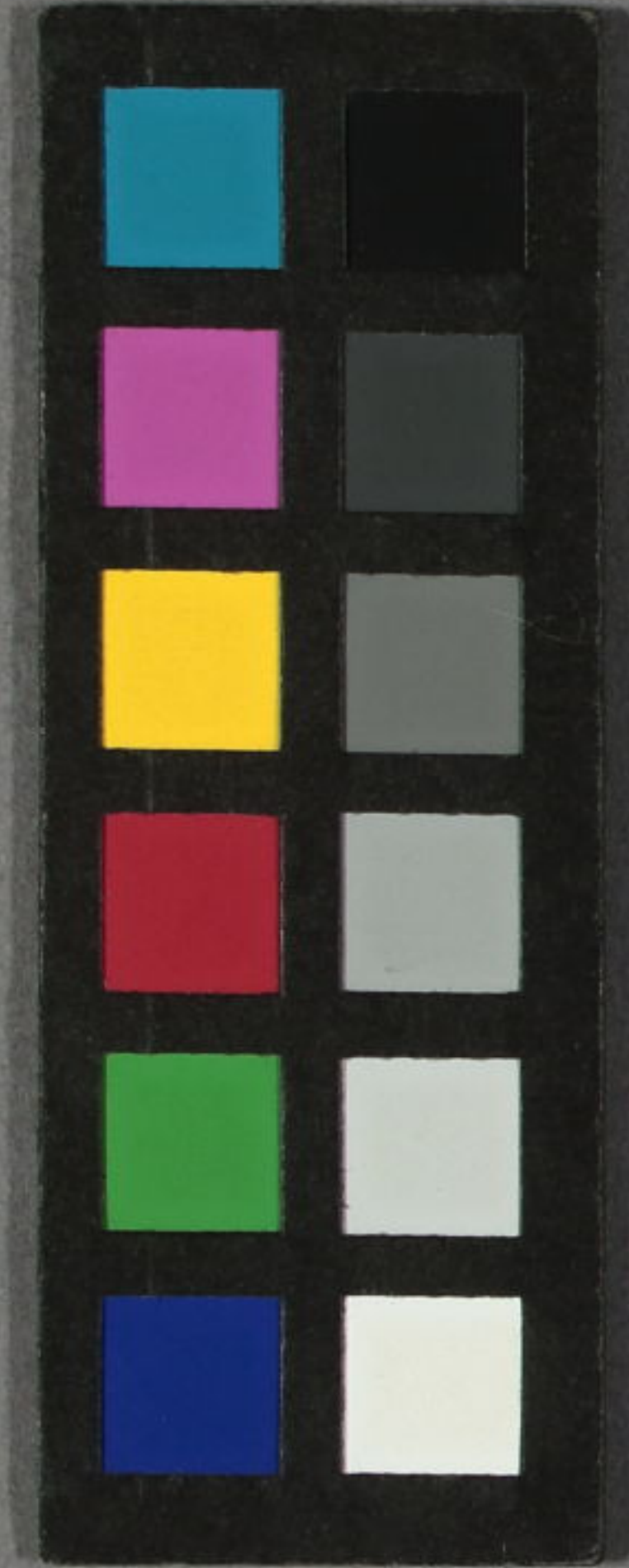


續藤栗毛六編 拾一上

真珠

13
3286
29



門 へ 13
號 3286
卷 29

昭和十六年一月十一日
尼野貴英氏 贈

本清

續藤栗毛六編序

親王巡行天下敷八龍之駿一九

光武道中依藤行儀一及の

藤栗毛五足教志の事添次喜良

西側と栗世に依其出さる編を

予の史編同を場中。所馬以

少岐稗御記十一冊

少岐の古物の目方の世目録

本の續編十一巻目 東都のかく

辰里馬子小冊の歌馬

一寸小の法本杖

馬士く

少岐の古物

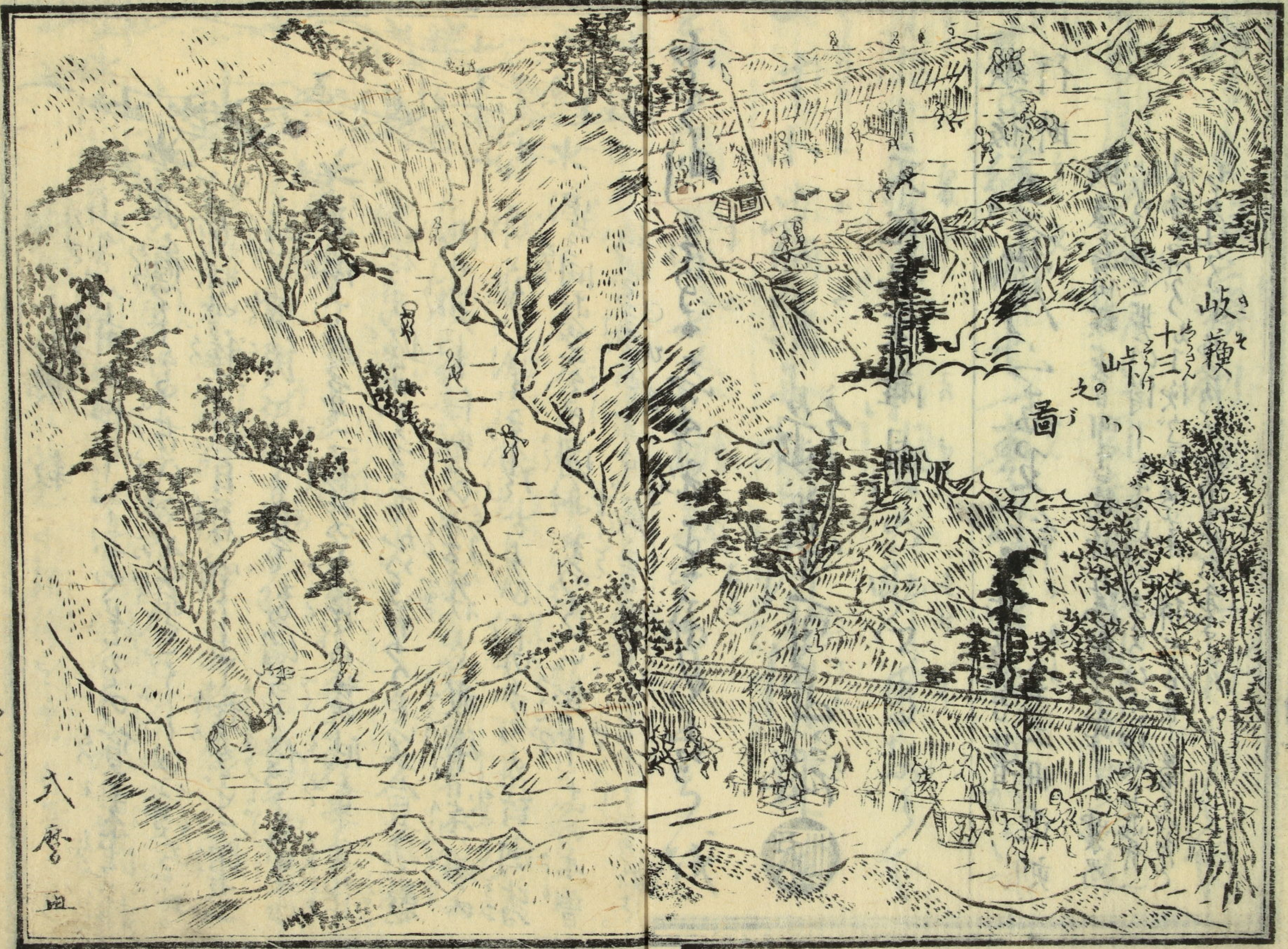
録亭可志



文化乙亥陸月

越後 行跡 二冊 乃 末五能 十返舎菅著 全二冊近刻

越後高田横濱自町を拾録在る初巻に記せし一巻の
始の一曲を貫の傳しを思ひつゝるひと録の上巻一
冊録しつゝ小冊の巻末に記す



岐嶺
十三
之
嶺
晉

式
磨
田

三

三

再叙

山気八景が呼ばれ、たゞその質素淳朴
 無難なるも、古代の美風をうけつたにあら
 り、それ程に自著に於て懐くまじ一部一
 邑の美風とまじりて、その山や川や、優美なる
 妙味を形とるべし、條の太厚の筑波集に草
 のみならず、山もとらへて、たゞちやんとし、自然の
 流の勢も伊物の深谷と、秋湫、流の
 所よりと、そそく、および、あつた、さう、
 異同ありき、國并るべし。能中出の本會
 録、二言とらる。故、音、母、す、上、高、あり、と。



て、その并あつたり、つと、只、新、ま、り、の、ま、を、た
 げ、う、る、ま、今、年、續、六、編、の、終、向、を、編、ま、ぬ
 稿、未、だ、後、信、物、抄、本、の、何、十、二、五、子、か、け、と
 非、の、お、と、せ、る、お、と、せ、る、年、々、希、の、著、述、録、小
 俣、言、の、送、り、と、を、記、し、ま、い、士、人、の、風、俗
 癖、あ、る、ま、と、中、で、精、く、考、察、せ、る、お、と、せ、
 下、等、書、の、初、終、の、頃、を、お、も、思、ひ、つ、て、信、物、
 善、古、老、寺、并、冬、情、一、所、く、お、と、せ、る、ま、
 復、と、見、ま、せ、し、ま、い、お、と、せ、る、お、と、せ、る、と
 符、合、し、ま、い、ま、お、と、せ、る、お、と、せ、る、と
 同、中、予、の、圖、お、と、せ、る、お、と、せ、る、と



きよらるるその推を述る事志可怪

十返舎一九誌(真流)

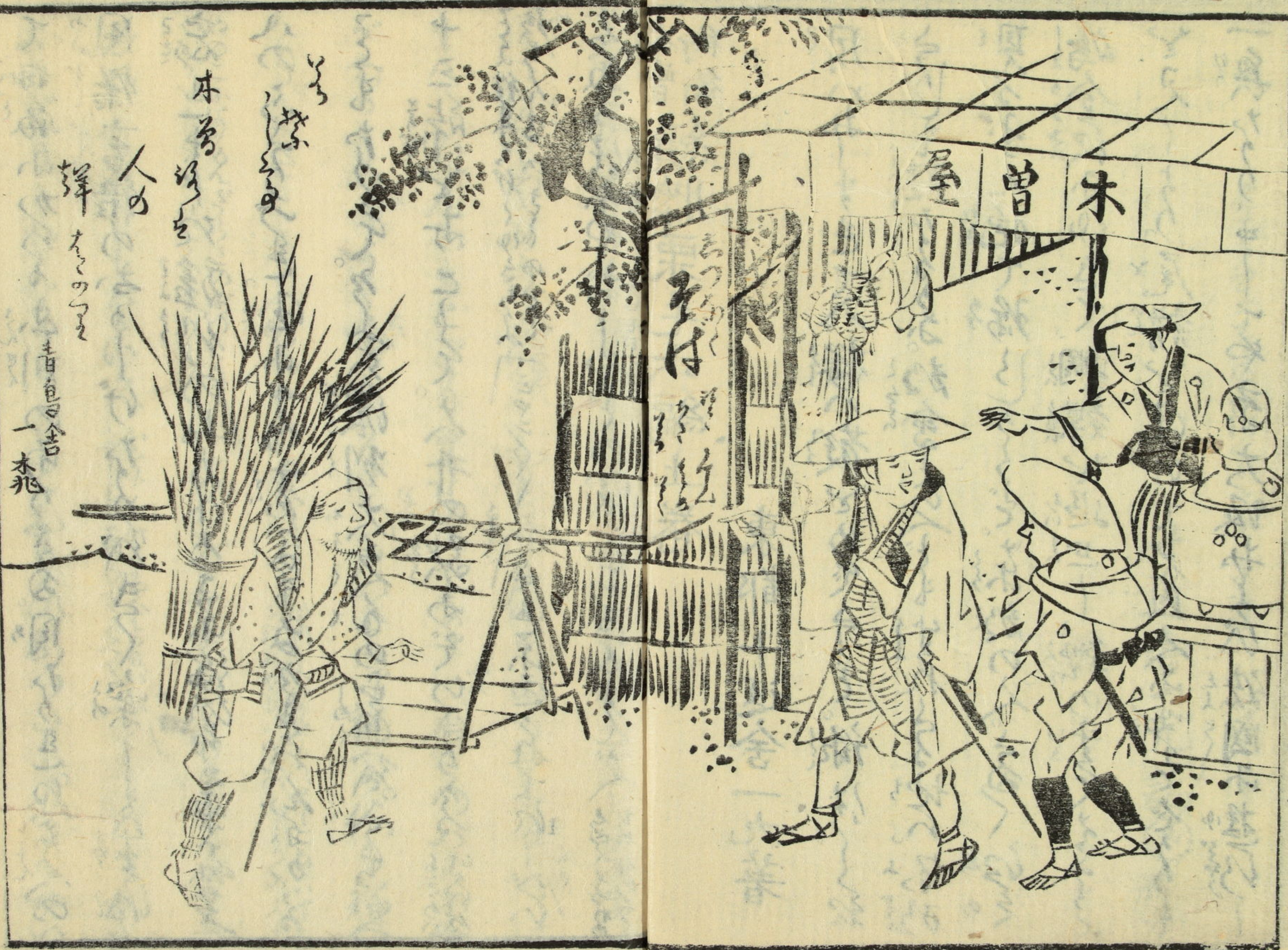
木曾續膝栗毛六編上卷

東都十返舎一九著

月つきのつらおおすすととてて入い。接つハハ散ちととめめとと。縁ゆ傳づとと終は。
らししもも理りななるるふふ。初は會あととののいいどどもも生なれれるる地ちのの不ふ明め。
見みるる小こええ絶たてて珠たまじじううららううとと。朱しゆ教かうのの人ひと。ささああくく江えのの。
鳴な金かねはは小こゆゆととてて。剛ごう業ごうとと追お追お。舞まのの生なるるををととううくく。
ととええくくよよりり。尾お鷲じゆととははけけててええぬぬ人ひと。小こいいちちととををううりりもも。
一い奥おくたたりり。中ちゆうししててやや京きやう大だい坂ばんかかららびび徳とく國こく不ふ推おしし。

十返舎一九著

上



木曾
 人の
 群

青白の金
 一本

木曾屋

木曾屋
 木曾屋

て日毎小かろる山川のありさめ。月なりきぬ人の
 風俗言語のさうげなるみましく樂しき事
 忘れし中下な體ののかりろるふ通命を棄て
 へのろつづきまふ事あるもふるまふんあ
 こもわろて。ろる濃別大之の宿旅さち出
 十三條とあこして。大井の歌あそりろる
 ちぬら。ほがやぢしわどのはてあふんぐ
ては又往來さびしくせらぢと
 終ちんものさびのそ

あさきうごころは中ししあまのりてごころは

ト体ごやせう一はあまのりてごころは

まんごたふもごころはませんをア

がわりのめごころはさるごころは

ろろ。ごころはさるごころは

あやあつりもなつろ

あごのろりトやなろろごとあひあつろあたま

ついでにうらな

十一

んでや「きさるの教しんぎょうをきうえきく」とありよこのまじり
 かりうて来あつきた。コレハゆさる口入くちいり一いち級きゅうの事こと
 の事こと。さうでもやうとうまうまいんでや「さかさかん
 かんかんが受うけふ」と。案あんもりすくのめめききここううててく
 コリヤコレもさうささふふななととささままららせせるるにに「ササ大だい
 久くの浦うらでござるササと「コレコレヤヤををききううじじららせせるるにに「ササ大だい
 馬うまゆゆりり孫まご敷しきああつつささ。今いま船ふね吉きち時とき不ふ出しううけけああつつささ
 「ああままのの夜よ道みちととななるるここもも二に舟ふねささららせせるる

とくとくののささららせせるるにに「ササ大だい
 事こと力ちからののんんででやや一いち船ふねとと一いち級きゅう橋はしななららずずにに「ササ大だい
 物もの「ああららどどよよささむむてて「ささかかううででここののややせせらら「ササ大だい
 おお身みののででけけぞぞんんででやや宿しゆく人にんははささああつつててももああらら
 宿しゆくままいいももああけけささせせてて先まへ宿しゆくががああららずずににもも湯ゆののささ
 たらたらどどららたた入いるるああららずずにに「ササ大だい
 たりたりもも餘あま人にんすするるハハささららずずにに「ササ大だい
 ててけけぞぞんんででやや「ササ大だい「ササ大だいそのそのららせせ宿しゆく屋やもも度たび

二五
 一三

てどろあしぬ一が思ねぐさでも。うやまひのしんが
 中の。猿籠籠へどろやせう「はるるゆきどろあるが。一人
 お百あまの介。そのうらどろあしぬてそのあつ
 おちのうがうが出ま箱へてあつやと宿の女おま
 しののがあつても。ちろちろと。遠へて。思ねぐさ
 親を。し。び。ら。う。う。ち。あ。つ。て。る。が。た。う。あ。ま。り
 作「イヤ。て。け。り。と。も。く。一。昨。夜。上。松。入。と。ま。り。あ。つ。て
 と。宿。の。お。ま。い。よ。し。と。あ。つ。て。の。が。あ。り。あ。つ。て。い。ん。

尊。主。成。候。あ。つ。て。ニ。ヤ。く。今。者。身。ど。も。幼。小。あ。つ。て
 女。の。し。せ。ち。中。う。ち。に。お。ま。い。り。同。金。ど。り。入。中。付。る。が。ど。ろ
 だ。ろ。と。入。組。あ。つ。て。尊。主。が。う。ち。に。あ。つ。て。お。ま。い。り。と。も。幼。小
 う。あ。げ。ま。せ。た。と。ら。ひ。あ。つ。て。一。ガ。ア。そ。ん。な。う。ら。その
 女。が。そ。よ。し。て。あ。ま。い。の。お。ま。い。り。中。に。あ。つ。て。イヤ。と。ろ。を。の
 来。た。ん。じ。い。と。「エ。と。あ。ふ。か。ん。こ。ん。な。ら。あ。つ。て。い。ん
 中。と。あ。ま。い。の。う。ち。に。あ。つ。て。い。ん。ま。せ。ぬ。ら。イヤ。と。ろ。を。の
 ま。い。り。と。も。幼。小。の。お。ま。い。り。と。も。幼。小。の。お。ま。い。り。と。も。幼。小。

ひさしな巻の終

一

へんじつしんがき... あたゝるあゝまゝに
 せむしあうまゝして。なんせむせむせむあうまゝに。いやはが
 たの吹売らとありよせむ。あどものまぢるあ。
 せんとせむてある。こりやまゝあるが。らんまけ。灰吹へ
 せむしあうまゝのが。あどもせむせむ(せむせむ)あうまゝのど。
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...

へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...
 へんじつしんがき... へんじつしんがき...

てあまぶるうきをすむしとぞ

トは四上のちよりの十段のちんがしあ
まのまのちよりのちんがしあ

「や」らんぞやく「らんま」ちんがしあ

「ま」はまげバ「ま」はまげバ「ま」はまげバ
ふり「ま」はまげバ「ま」はまげバ

「あ」まはまげく「あ」まはまげく「あ」まはまげく

「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの

「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの

「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの

「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの「さ」ぶんの

ど紙あこころて終いふれう「やア」がうこ「志う」を紙入
さめが侍「ら」めい「の」ごうら。あやするふまう「は」紙。さめ
まどく「ま」ごどけく「の」かまさん。侍め「や」がう「も」かま
「の」紙の「時」あ「ま」や「あ」り「あ」ま「ま」が「ご」この「あ」国
「く」が「紙」「あ」ま「ま」の「あ」ま「ま」ご「ご」の「ま」ま「ま」あ
「ま」が「紙」め「ら」い「り」中「い」なる「あ」ど「紙」を「あ」ま「ま」て
今「紙」あ「ま」紙「ま」ご。そんなう「あ」の「あ」紙「ま」ら「ぬ」が「息
「ま」で「ま」紙「ま」ま。そんなう「あ」あ「ま」ふ。あやま「ま」す

江戸の人情

晴〜也

仲々

何事

歎

人

この里

其由舎

一蟾



く〜あ〜あ

め〜

い〜

あ〜

花の子

九光舎
一井



江戸の人情

よろこびのを「い」えたる。おろとよしく、のぞく坊か
ごとありつこして。かうてさふうけさるやアほるこホニ

こんごめふあつこ。サア出うけかううトちや代とをうひ

侍まうらひとおりのひの糸の芳さい威ごいお

ひやうさきくるニ中な持ぢ鼻び

かくて大井の宿をそたるもして。そやくも先い津じお小こる
場ばとあり。中津川の歌うたふ行く。ひ宿をぐさしおい徳とく東とう
の人。ありうさたるありあつと。何なにごとかかるんと。二ふたもささあ

視みきうまぶ。まづまほまいいササアアくくどどああままおおいいささままだ

たのむたのむむひひささくくままささくく。ななんんくくごごととくくととぬぬんんおお中ちゆう

さうりさうりり中ちゆうせせ。私わたくしのの系けい船せんああててのの四し系けい河か系けいおお井いののまま。大だい

坂さかのの天てん満まん天てん種しゆ山さん玉ぎよ屋ゐ屋ゐ頓とん場ばああてて。由ゆ判はん判はんおおあありり

中ちゆうくく。男おとこ。ままははゆゆひひととあありりななららずずああんんああととごごぞぞれれ。幸さい業ごう

ななああががおお願ねん。扱さくおお結けつ束そくののままささるるとと只ただ今いま天てんででおお願ねんおお

かけかけ中ちゆうままがが。必かならずああととままささききででややぞぞ。ササアア中ちゆうりりううけけままささるる。

ままづづののけけままささるるとと各それぞれでで。おお屍しかばねううらられれてておおあありりままささるる。

ひらりと尻へ出まふ小役の出るあまさませるが出来ること。
 ツリやかくらぶやうに。さうかむらうの。まきしん。伴の
 吉市でおまなま。ローがけさせると。春の。後の中
 で。ひらりと出る。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 吸口。小役の。出る。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 サア。後人も。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 ても。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 と。世界のひらりの。まきしん。ローがけむらう。まきしん。

うら。穴。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 紙。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 て。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 で。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 口。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 ふ。まきしん。ローがけむらう。まきしん。
 の。まきしん。ローがけむらう。まきしん。

おうが。山のやうふありのうたなる。そいざなむつてんわ
 さぬが。ナトあつくひら。世るのえんせふ。りあくのあがら
 ろりあうけてあまごことなひさのあまやせまの。今ふ
 洋判ふたうつて。高ひがらとありらう。こもおも笑後
 とまうてやうと。それう毎日そあふふさと。くさぬが
 えせうねふ。軽うら。暖まであ。合るう。合んぬ相ひ
 あれど。あしがひらう。ところてんとおるあうさうならい。
 コリヤ。あつちづとや。うが。小役のあるあうら。吹出さあふ。
 ほけてあるあのだ。とひてあまの。屋裡。やと。そんが
 影ら。まじて。コリヤ。はまう。入りもの。ドやと。ありふ。あう。さ
 又あつ。おの。搬。後。さる。か。出。な。う。れ。て。こ。ち。の。内。の
 来てくま。し。甲。い。の。吹。草。が。損。じ。こ。さ。う。の。高。か。ら。う。さ。さ。る
 ぞか。ま。り。お。せ。う。い。と。と。音。程。不。引。き。む。つ。て。し。も。さ。あ。つ。て
 ぞな。ら。よ。す。う。と。あ。り。ふ。さ。う。ら。う。う。ら。う。う。あ。ん。せ。う。え。の。ま。向
 おま。ら。ら。せ。て。口。の。中。へ。何。や。う。掃。木。の。や。う。ま。の。め。の。死
 う。あ。り。て。あ。う。さ。う。入。ま。じ。う。の。さ。ま。あ。ら。と。吸。は。ら。う。う。う。く



ひるまのしんせう

ひるまのしんせう

上

と風が吹て。火があらるさうい。こゝもあんまりあつ
 ちうて。ツイ吹出ささひをうしふ屋が就るがう。あつちう
 とひとつづくと方と。無活屋さめが。こりやは吹出すか
 あくんまの。唇の用公がよるといといのまじしこと。こゝにト
 け内りく引くじりして。緋の合振のうまよ。あつちうまじり
 せあひするあぢぢえおしめておしりか大あぢぢをして。あんのらんごる。
 がいよはべいたつて。ませらるのうら春のさめら。あ
 ぢけいあつちうまじり。こゝらのあつちうあやア。あつちうのうえ
 のんでまじりのおしりかごぢぢらう。だちうめらあつちうまじり



本芳川の

再々

はなま

事ありし

舟片金中九

ひらき川舟の巻

上二

のりのどぶ。いすの二圍ふたごうとらふおで。いふどらや田と
 えりどりの種たねなるふとらふ向むかひへて早はやふぬ
 ふふせせ二男ふたごささ「ヤヤおまおま。ツリヤアツリヤアたた中ちゆうげげののふふとと
 めめううららががああししぬぬややああももももそそんんどどアアここららややここ好す
 ででごごぶぶららががああしし今いま夜やアアららががああままててここままらら
 是こゝぬぬららおお候こう中ちゆうささぶぶととふふ「ししららささるるゆゆめめももああめめのの
 取とりりててああままららふふたたりりやや日ひりりらら「おおめめささここんん
 ららここららととままごごららううげげ「おおかかままららううここららアア移うつ入こののきき

やせうがやせうがおめ入おめいれのお宅うちへへ一いちららううががああいいけけここのの二に三さんはは
 とらふああらら二里にりぶぶののもも上かみでで福田ふくとんとらふ村むらででここ
 ららアア「おおここららくく後ごののしし移うつ入こととままごごららううととやや
 移うつ入こ「おおかかららくくいいままややららせせくくトトそれそれららううららくくそそのの言ことばをを
よううにに村むら取とりりままごご言ことばをを話かた
 たりたりままははふふららりりててひひどどりののううここ山やまああくく入いれるる小こ結むす束たばののままれれふふここ山やま
 山やまののおおりりららららららととどどりののけけううちちああももららくくああれれどどもも。ああままらら
 ららここららくくままががあありりててままごごののああわわぢぢののううららままつつききててんんののままはは村むらののああまま
 ととままごごののままははままららははままららううちちととあありりててよよううににひひららままごごをを
 移うつ入こ「おおかかららくくいいままややららせせくく。ああままららくく
 移うつ入こ「おおかかららくくいいままややららせせくく。ああままららくく

山

上

由馳をぞごごりやまてトは固てしとまのめいめいしてらる

とごおろうを 海がからちあやアあひまきまのいざり

ゆりくららら〜おぐらまき〜ト物らまのうてはくもて

らうまひくらちものけなほたれどまひめいから ねり

報とらぬ是小山様とくろえるとはあはいざり

あさりのめいどふとろえなされま〜はくらと

ゆふ一ばんサアゆめさ〜はくまから移るトはくのせ

〜はくとゆふの味ゆでらふし〜はくも玉味

ゆふやアあやまる〜はくゆりろ様がい〜はく移るらとそれゆ

の不肖はくたるから〜はくとてらぬゆてそれゆ〜はくゆり

ゆふゆふゆ〜はくあやらか今山様とくろえるとゆ〜はく

ゆふゆまいてはしてコレえなまき〜はくゆりゆりゆり

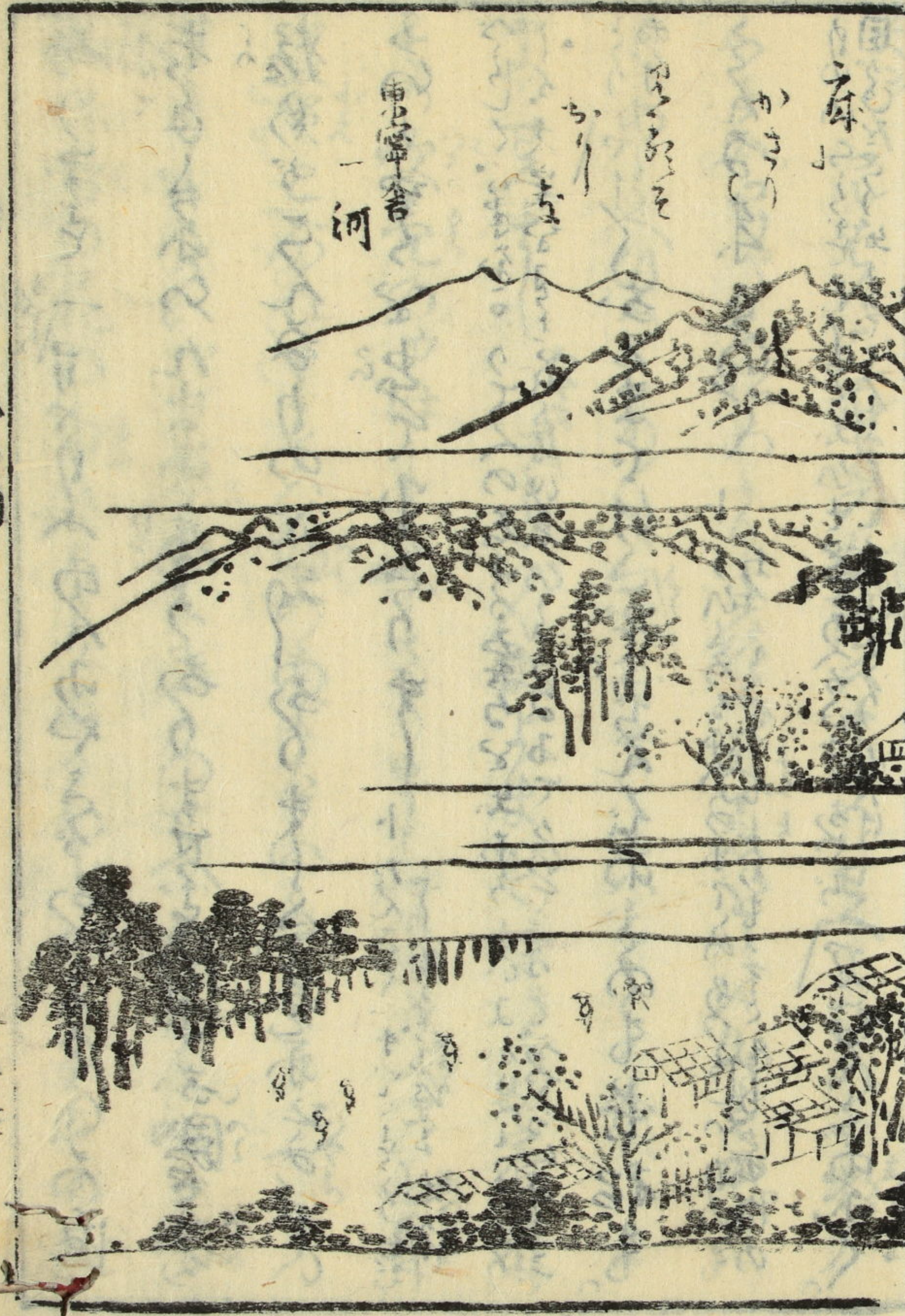
ゆふゆあやまるゆゆゆ〜はくゆりゆりゆりゆりゆり

ゆふゆあつてもでこ〜はくゆりゆりゆりゆりゆり

ゆふゆあつてさな〜はくゆりゆりゆりゆりゆり

ゆふゆあつて〜はくゆりゆりゆりゆりゆり

中津川

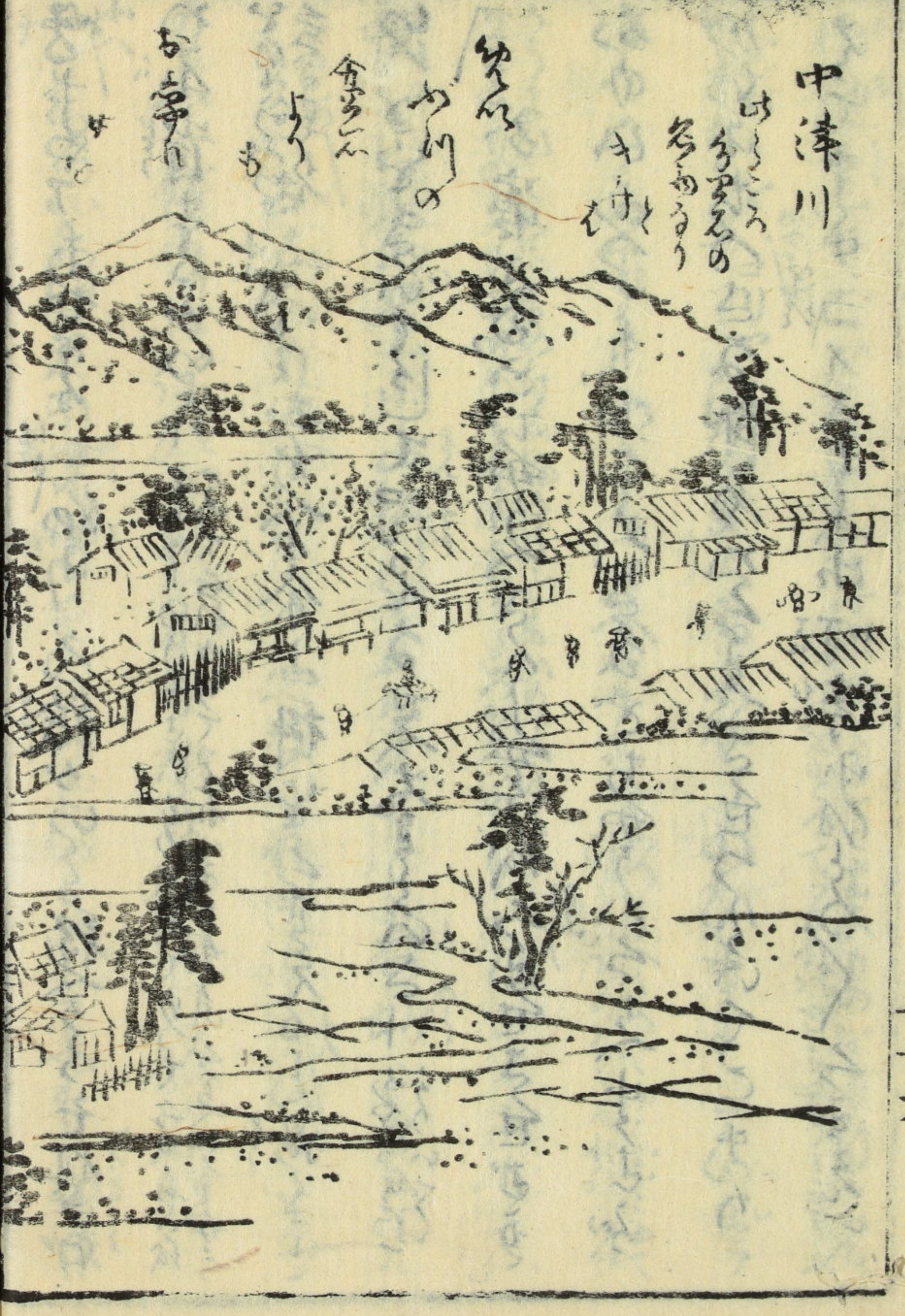


南河原

河
か
り
ま

中津川

か
り
ま
の
ま
た



か
り
ま
の
ま
た

中津川

中津川

ありませと「コリヤりいあんあめ」があるしあひのたはじ
 おまぶららんま小房うありませむ時小あ者なる
 振れがらんまりのせありませ「是小くみんい
 ういとやらと出て下りませ」トたんさく「せいのしきり
 べしくしををりて人のあたるをちを出あうよいかんし
 一かたまをよこれるゆゑひつうなむてうのせ中しあやう
 ころり「ヤしくちるまでけごぞをんをあどめも長松も
 わけ」らんままさしくトらんまのゆへあめでめりし
 ろのめららむとそくしとさく入るさあやら「ア」さうしあふく
 目ごころりせくしとさくともあしり「ア」さうしあふく

「こしたんをあどの念心へませ」又よじのよね
 うさひ。コリヤ長松あうりらんま「文意とけりあまの
 とあへんらんまへく「おんまへく」さくしとさく
 中の甘んまへ「コサらんまよまま」コホシく「あ
 その吹売のウけ「ステ」下りませ「コホシ」コホシ
 が考「こがれ中」まのあななるあま「あま」
 甘ん「あま」あま「あま」あま「あま」あま「あま」
 粉味「あま」の尻の白「あま」なるあま「あま」かま「あま」の

ののど。きさのどくをらんとすかれど。お陳屋さるる
 のまけりぐうぐう。口どとふなひ。いんまも解入たよ
 候命のしと。いふける。とちちあひて。ひきとて
 むげちるる。とる。のるる。うう。い。ひきとて
 ていごど。かひひあつて。け孫ちぎりのまじさの
 孫ちぎりのと。おおをたひんせびと。うう。い。ひきとて
 ぐう。ああもう。うう。眼。ふひかたのうがよ。か。とてのよ
 解入た。そうとて。と。も。う。う。も。た。ま。げ。と。理。屋。を。す。也。

サア 久甘屋口どとふなひとあまうらめ。うう。い。ひきとて。

「そうとて。と。う。て。う。う。あ。あ。も。熱。の。皮。ア。ん。が。れ。る。あ。が。ん。

ぐう。う。う。あ。あ。い。う。う。か。陳。屋。さ。る。う。う。い。

は。け。ま。う。口。ど。と。う。て。と。も。ぐ。僅。云。の。ウ。う。い。

う。う。さ。る。を。か。ぐ。う。い。む。け。ら。な。い。お。お。熱。の。皮。の。あ。つ。い。

う。う。い。ひ。か。た。の。う。が。よ。か。と。て。の。よ。

う。う。い。ひ。か。た。の。う。が。よ。か。と。て。の。よ。

しんぎふん

上伏

のけてにげまわりのゆりしおたをこぢんせふこらうくから。いとらるまふけ
たままでやちかしくいふあつくあうしんりまふまふらりあ。とらうてい
こらうくづるくまふまふらうなれが後すか。一^つてこたういあひひを
つここののうきふり。とらうこまふびてあうらる。

まふこ後すか。つるいが。らんまのまふまふでらうのま
のウーむなりくあうらうの。そのまふまふやふいふて
られさ。一^つあふひあふのまふ。らんまのまふまふで二
ありあうこまふアあひら。トづく。一^つまふあふあひ。後
あやアなひら。あうらうてえらう口入。一^つイヤあふまふく
一^つイヤあふまふく。でも一^つあやアあうらうまふと。あうら

々

うめがらうてまふまふアせまひら。一^つホ三あうまふく。あ
うらうまふのウー一本あうらうなひら。り。曲^く窓^どへでも
さうつまふの口なひら。あうまふら。一^つか^かくあめ人の
まふハッ^ハま^まのまうらぶのあうふ二本まがうらあ
あやア移^{うつ}へ入。一^つボリヤあふあふ。はま^あま^あのウ^うま^ま
とつて。ヨリヤうらうのあう入あま^あのま^まあ^あん^んぐん^{ぐん}ま^ま
あ^あがつま^まあ^あう^うな^なん^んま^まり。一^つコ^こあ^あん^んあ^あう^うま^ま
あつては^まあ^あま^まり。一^つサアま^まらう^らあ^あま^ま。一^つま^ま

ひらねの巻の終

一

いさ
くひ
らま

結人

仲
書

乙
全
の

権
お

ま
ん

ち
う
り

ま
さ
あ

威
和
亭

ま
さ
あ
武



條の類の皮のウエヒと云ふ所は「イシキヨウ」條の如
くのはいろの皮アト云ふところなる所。その下にあの
ほろア。がふやがぶやがあらて素人あわ「剥」つ
かづぎと「あのと」口のところ。そとくといひらばじ
うきよろぞと。サテくもんなかんと申すところを
ト申す所のさあつち。あつちの寺のちりまを
スへてあしやうらうらうとさうとさうとさうとさうと
く。之が條がほろの皮のウエヒと云ふ所は「
むげち」のウエヒの科がある。そきふと云ふはあつて

もろぞが。あへてごころ。おとのさぬが細工のふ。入
用とすとりふらんで。之が條が類の皮ア。その下に
こふ。條のさうらう。け。のウエヒと云ふ所は「
とあつて。あしやうらうらうとさうとさうとさうと
えせると。い、コリヤア字でういへる。ひらこの花がよ
づうらうと。あふ人が級名であつただけふ。剥
らうらうと云ふ所の「の」で「り」は「之が條の皮の
とんていごさうらうぬ。拍槎の皮のウエヒと云ふ所
らうらうと云ふ所の「の」で「り」は「之が條の皮の

このひしき

上木三

本清

いもの又このぎとあるら。けえか^の巻後十の類のは
とんであらざとありいあつこふ。こ後十。いこのん
とあつては合^一ごなり^二。そん^三づう^四のう^五あつて
ごづうあいのう^六コリヤア。あや^七ら^八あ^九のあ^十げで^{十一}の
類のはア^{十二}ふ^{十三}か^{十四}い^{十五}や^{十六}ま^{十七}る^{十八}よ^{十九}ト^{二十}ら^{二十一}あ^{二十二}ら^{二十三}あ^{二十四}ら^{二十五}あ^{二十六}ら^{二十七}あ^{二十八}ら^{二十九}あ^{三十}ら^{三十一}あ^{三十二}ら^{三十三}あ^{三十四}ら^{三十五}あ^{三十六}ら^{三十七}あ^{三十八}ら^{三十九}あ^{四十}ら^{四十一}あ^{四十二}ら^{四十三}あ^{四十四}ら^{四十五}あ^{四十六}ら^{四十七}あ^{四十八}ら^{四十九}あ^{五十}ら^{五十一}あ^{五十二}ら^{五十三}あ^{五十四}ら^{五十五}あ^{五十六}ら^{五十七}あ^{五十八}ら^{五十九}あ^{六十}ら^{六十一}あ^{六十二}ら^{六十三}あ^{六十四}ら^{六十五}あ^{六十六}ら^{六十七}あ^{六十八}ら^{六十九}あ^{七十}ら^{七十一}あ^{七十二}ら^{七十三}あ^{七十四}ら^{七十五}あ^{七十六}ら^{七十七}あ^{七十八}ら^{七十九}あ^{八十}ら^{八十一}あ^{八十二}ら^{八十三}あ^{八十四}ら^{八十五}あ^{八十六}ら^{八十七}あ^{八十八}ら^{八十九}あ^{九十}ら^{九十一}あ^{九十二}ら^{九十三}あ^{九十四}ら^{九十五}あ^{九十六}ら^{九十七}あ^{九十八}ら^{九十九}あ^百ら

おと^一ば^二よ^三と^四こ^五と^六な^七い^八て^九り^十利^{十一}お
か^{十二}り^{十三}く^{十四}ぞ^{十五}よ^{十六}い^{十七}は^{十八}く^{十九}の^{二十}皮^{二十一}

木曾 街衛 續 膝栗毛 六編 上卷 終

六編 上卷 終

上卷 終



